



**2018年12月期**

---

**決算説明会**

SBSホールディングス株式会社

2019年2月19日

# ■ 目次

---

## ■ 2018年12月期決算概要 及び 2019年12月期見通し

## ■ 2019年度グループ経営



**2018年12月期決算概要  
及び  
2019年12月期の見通し**

**執行役員財務部長 遠藤 隆**

# ■ 連結業績(対前期比較)

2

(単位:百万円)

	17年度通期		18年度通期			
	実績値	構成比	実績値	構成比	増減額	増減率
売上高	152,870	100%	203,516	100%	50,645	33.1%
営業利益	6,229	4.1%	8,240	4.0%	2,011	32.3%
経常利益	6,475	4.2%	7,607	3.7%	1,132	17.5%
当期純利益	4,446	2.9%	4,409	2.2%	△37	△0.8%

# 連結業績(対計画比較)

3

(単位:百万円)

	18年度通期					
	予想値	構成比	実績値	構成比	差異額	達成率
売上高	202,000	100%	203,516	100%	1,516	100.8%
営業利益	7,500	3.7%	8,240	4.0%	740	109.9%
経常利益	7,200	3.6%	7,607	3.7%	407	105.7%
当期純利益	4,000	2.0%	4,409	2.2%	409	110.2%

※予想値は2018年8月13日に発表したものです。

# セグメント別業績(対前期比較)

4

(単位:百万円)

セグメント累計		17年度通期 実績値	18年度通期		
			実績値	増減額	増減率
物 流	売上高	140,422	188,627	48,205	34.3%
	営業利益 利益率	2,692 1.9%	4,572 2.4%	1,880	69.8%
不 動 産	売上高	5,745	8,172	2,426	42.2%
	営業利益 利益率	3,278 57.1%	3,913 47.9%	635	19.4%
そ の 他	売上高	6,703	6,716	13	0.2%
	営業利益 利益率	413 6.2%	273 4.1%	△139	△33.7%

※上記各セグメント営業利益の合計額に連結消去等の調整をした結果が損益計算書の営業利益となります。

※2017年の調整額は△154百万円、2018年の調整額は△519百万円です。

# 不動産事業業績(対前期比較)

5

(単位:百万円)

不動産事業	17年度通期		18年度通期		増減額
		構成比		構成比	
<b>売上高</b>	<b>5,745</b>	100%	<b>8,172</b>	100%	<b>2,426</b>
前期比	<b>△44.1%</b>		42.2%		
<b>賃貸事業</b>	<b>2,682</b>	47%	<b>2,794</b>	34%	<b>112</b>
<b>開発事業</b>	<b>3,063</b>	53%	<b>5,377</b>	66%	<b>2,314</b>
<b>営業利益</b>	<b>3,278</b>	100%	<b>3,913</b>	100%	<b>635</b>
前期比	<b>△35.8%</b>		19.4%		
<b>賃貸事業</b>	<b>1,388</b>	42%	<b>1,516</b>	39%	<b>128</b>
<b>開発事業</b>	<b>1,889</b>	58%	<b>2,397</b>	61%	<b>507</b>

※賃貸事業:保有する物流施設、オフィスビル、レジデンス等を賃貸する事業。

※開発事業:開発した物流施設をファンドや機関投資家に売却(流動化)する事業。

# ■ その他事業業績(対前期比較)

6

(単位:百万円)

その他	17年度通期		18年度通期		増減額
		構成比		構成比	
<b>売上高</b>	6,703	100%	6,716	100%	13
太陽光	458	7%	423	6%	△35
マーケティング	1,543	23%	1,482	22%	△61
人材	3,881	58%	3,842	57%	△39
<b>営業利益</b>	413	100%	273	100%	△139
太陽光	155	38%	156	57%	-
マーケティング	90	22%	78	29%	△11
人材	141	34%	△31	-11%	△172

※上の分類は主要項目であり、環境等の売上高、営業利益は影響額が小さいため記載を除いています。



# セグメント別業績(参考)

(単位:百万円)

セグメント		17年度通期 実績値	18年度通期		
			実績値	増減額	増減率
物 流	売上高	140,422	188,627	48,205	34.3%
	調整前 営業利益 利益率	4,215 3.0%	6,072 3.2%	1,857	44.1%
不 動 産	売上高	5,745	8,172	2,426	42.2%
	調整前 営業利益 利益率	3,362 58.5%	3,990 48.8%	628	18.7%
そ の 他	売上高	6,703	6,716	13	0.2%
	調整前 営業利益 利益率	491 7.3%	336 5.0%	△155	△31.6%

※上記各セグメント営業利益の合計額に連結消去等の調整をした結果が損益計算書の営業利益となります。

# 不動産開発を除く業績(参考)

(単位:百万円)

累計	17年度通期		18年度通期			
		構成比		構成比	増減額	増減率
総売上高	152,870	100%	203,516	100%	50,645	33.1%
不動産開発	3,063	2%	5,377	3%	2,314	75.6%
売上高 (不動産開発除く)	149,807	98%	198,138	97%	48,331	32.3%
総営業利益	6,229	4.1%	8,240	4.0%	2,011	32.3%
不動産開発	1,889	1.2%	2,397	1.2%	507	26.8%
営業利益 (不動産開発除く)	4,339	2.8%	5,843	2.9%	1,504	34.7%

# 連結貸借対照表の推移

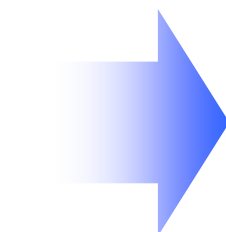
**2017年期末**

単位:億円

**2018年期末**



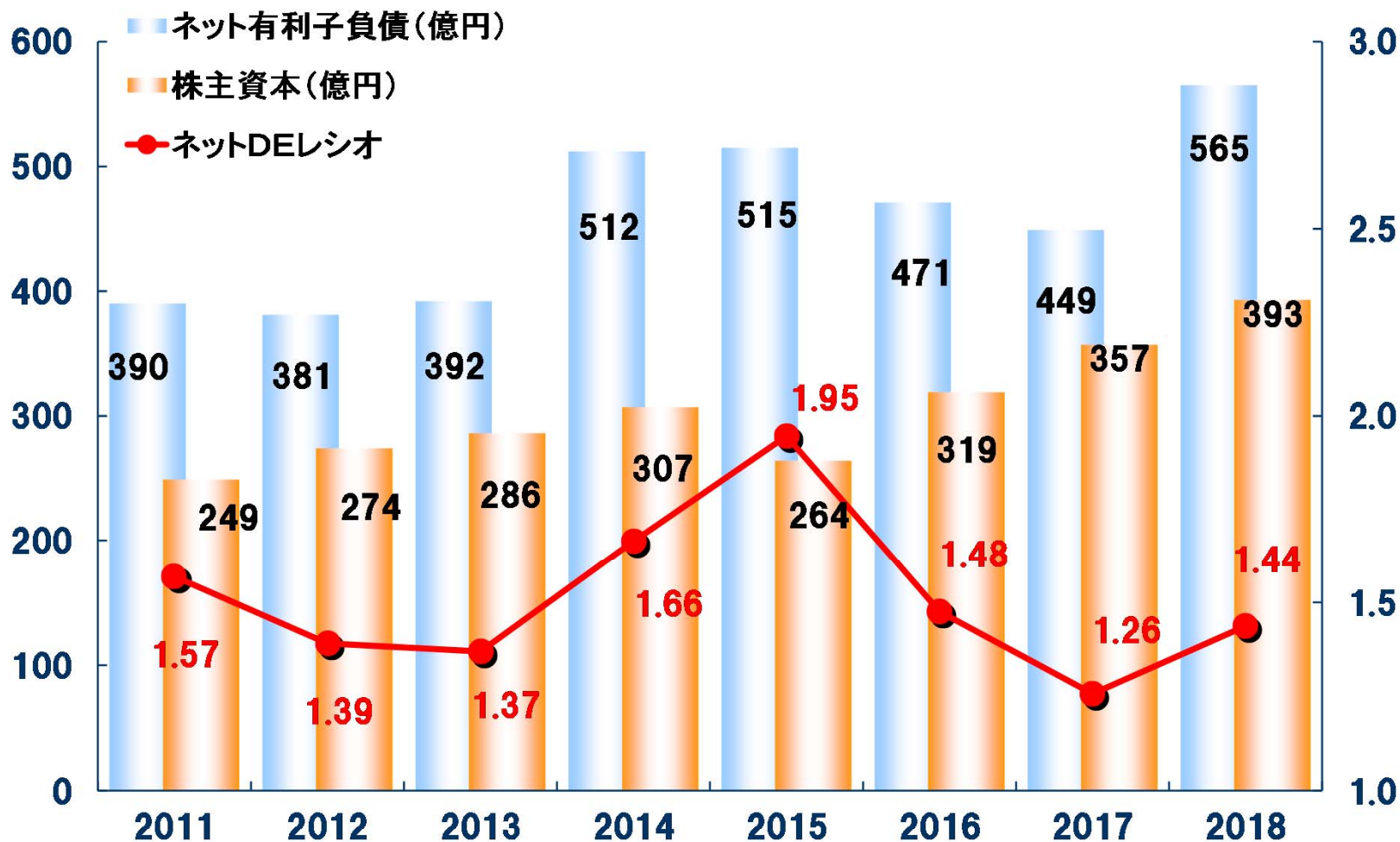
**総資産 1,278億円**



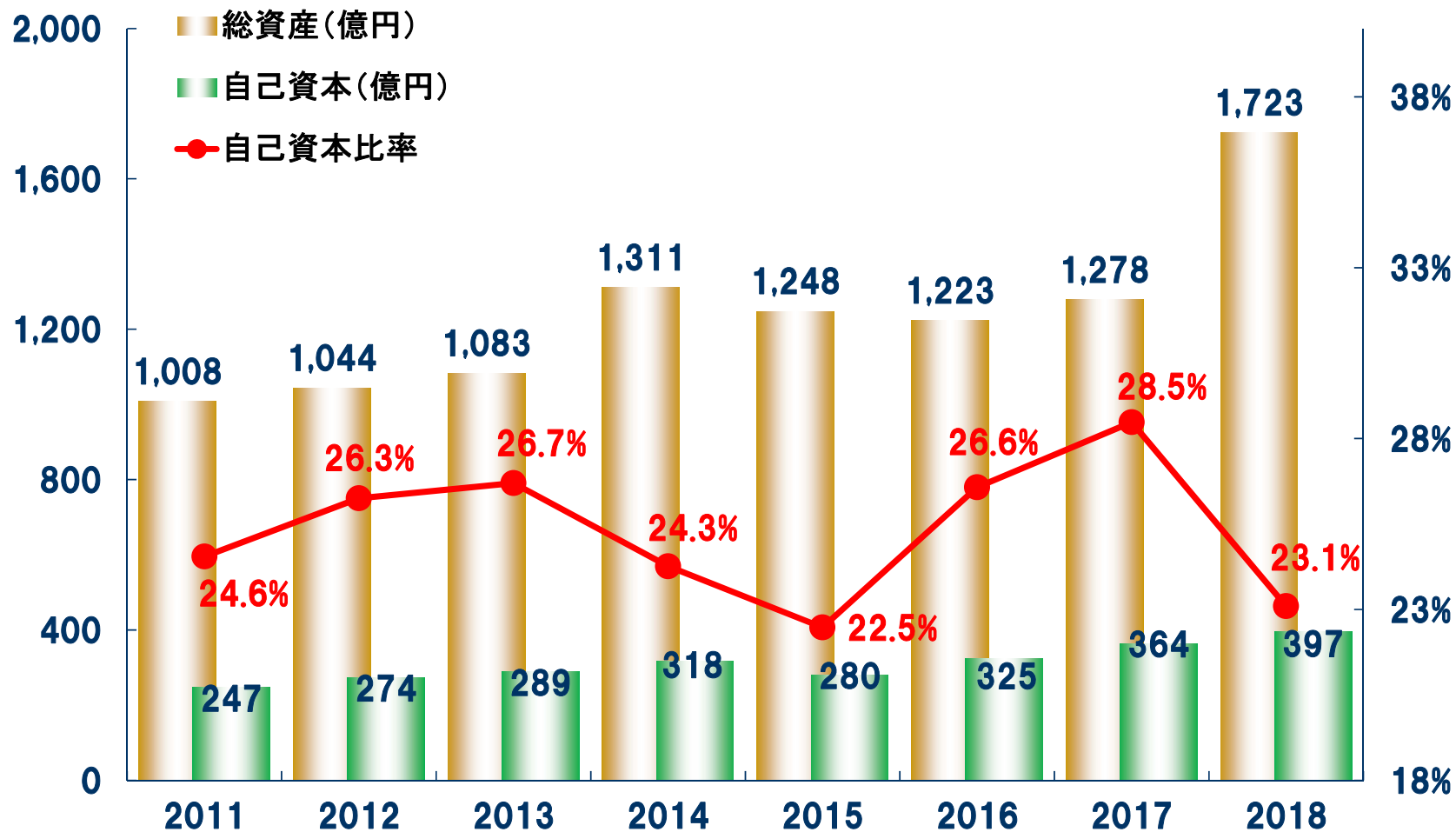
**総資産 1,723億円**

**+445**

## ネットDELレシオの推移

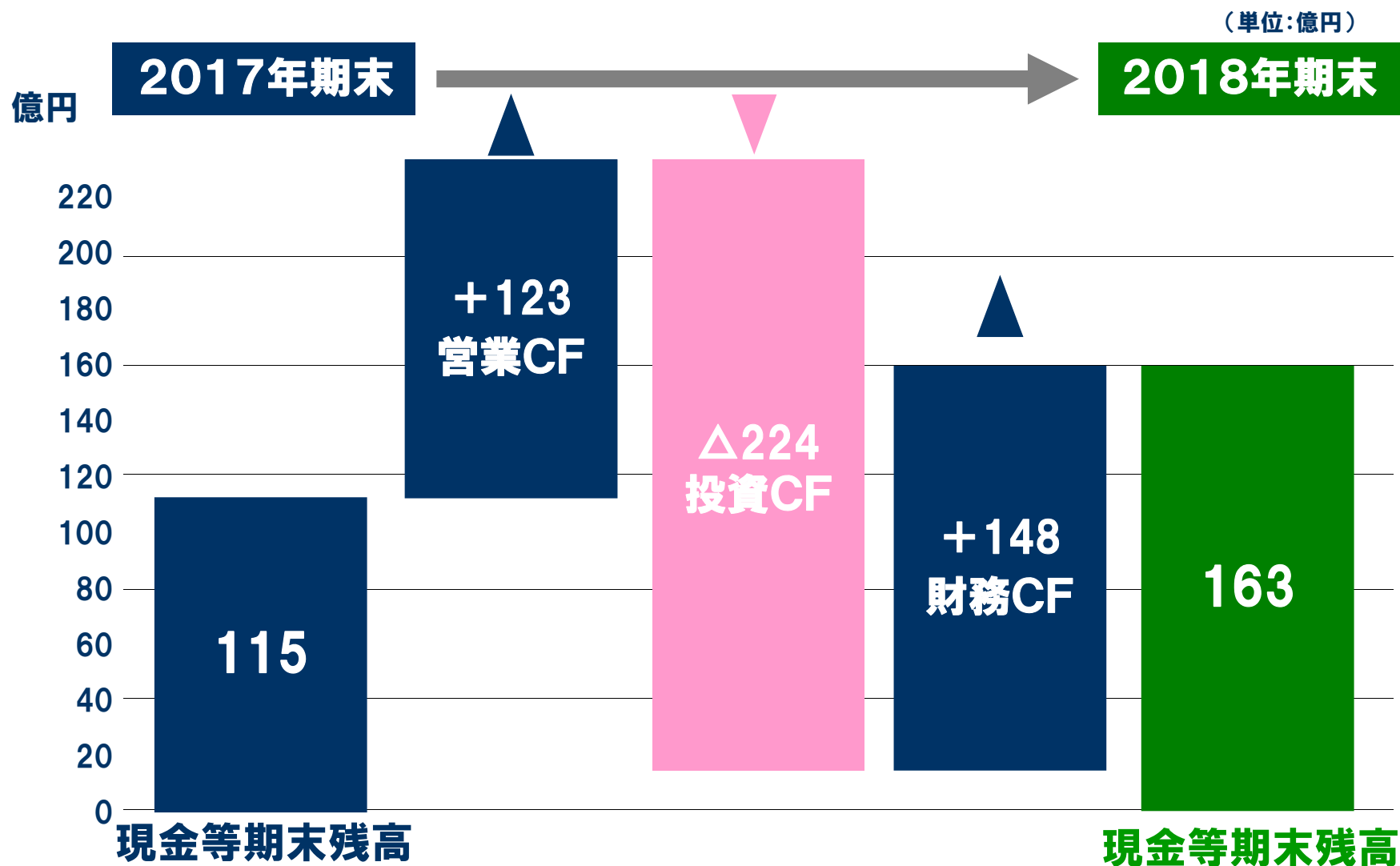


## 自己資本比率の推移



# 連結キャッシュ・フローの概要

12



(単位:百万円)

	2018年度		2019年度			
	実績値	構成比	予想値	構成比	増減額	増減率
売上高	203,516	100%	250,000	100%	46,483	22.8%
営業利益	8,240	4.0%	9,000	3.6%	759	9.2%
経常利益	7,607	3.7%	8,400	3.4%	792	10.4%
当期純利益	4,409	2.2%	4,800	1.9%	390	8.9%

※予想値は2019年2月13日に発表したものです。

# セグメント別業績予想

14

(単位:百万円)

セグメント		18年度通期 実績値	19年度通期		
			予想値	増減額	増減率
物流	売上高	188,627	234,800	46,173	24.5%
	営業利益 利益率	4,572 2.4%	5,250 2.2%	678	14.8%
不動産	売上高	8,172	7,800	△372	△4.6%
	営業利益 利益率	3,913 47.9%	3,650 46.8%	△263	△6.7%
その他	売上高	6,716	7,400	684	10.2%
	営業利益 利益率	273 4.1%	300 4.1%	27	9.9%

※上記各セグメント営業利益の合計額に連結消去等の調整△519百万円(2018年)、見込調整額△200百万円(2019年)を行った結果が損益計算書の営業利益となります。

※不動産の売上高、営業利益には物流施設の流動化金額(開発事業)を含みます。



## ■ 2019年12月期 期末配当(予定)

- 基準日 :2019年12月31日
- 1株当たりの配当金 :23円

- ご参考  
2018年12月期 期末配当実績  
1株当たりの配当金 :22円

※増配1円(対当初発表)





# 2019年度グループ経営

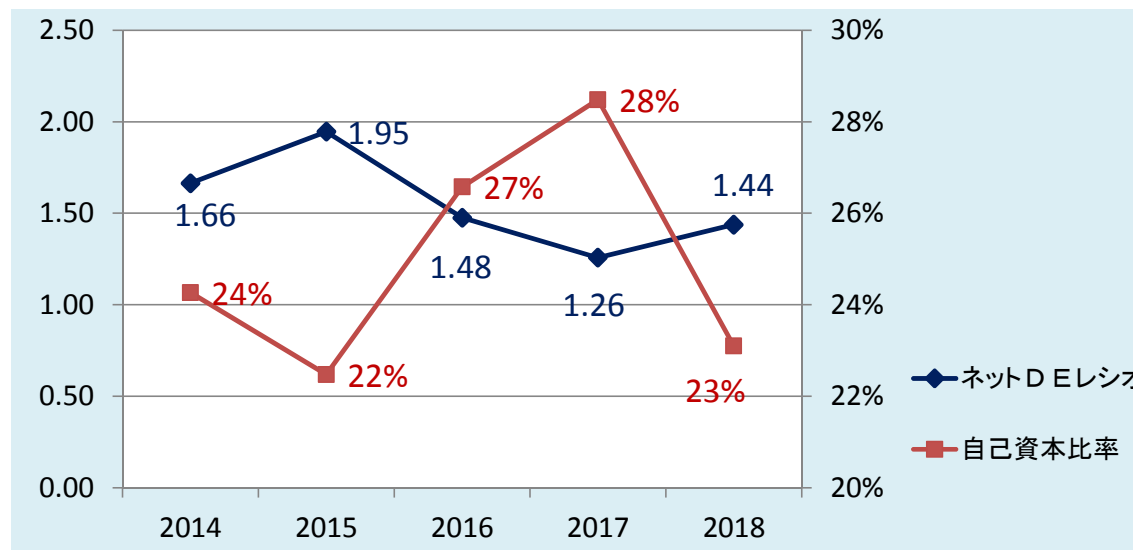
代表取締役社長 鎌田 正彦

# 2018年12月期業績サマリ

## ■ 対前期30%超の増収増益で、計画値を達成。

2018年度通期	実績値	対計画	対前期
売上高	203,516	100.8%	増収 33.1%
営業利益	8,240	達成 109.9%	増益 32.3%
経常利益	7,607	105.7%	17.5%
当期純利益	4,409	110.2%	△0.8%

## ■ 財務諸表: 投資を加速



## ■ 2018年度の新規案件、拡大実績(旧SBSグループ)

- アパレル業、小売業向け拠点統合
- 文具メーカー東日本物流センター運営
- アミューズメント業向け入出庫業務 など

## ■ SBSリコーロジスティクスの3PL主要荷主

- リコーグループ、大塚商会、電子部品関連商社 など
- 国内物流事業売上高における3PL構成比は約78%(2018年12月期)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019計画
売上高(海外を除く)	1,317	1,398	1,793	2,172
3PL売上高	547	588	889	1,129
前期増減率	6.8%	7.6%	51.2%	27.0%
売上高構成比	41.5%	42.1%	49.6%	52.0%

- EC通販向けラストワンマイル事業をSBS即配サポートからグループ各社へ展開し、対応エリアを拡大
  - SBSフレック、SBSロジコム、SBSゼンツウのネットワークとノウハウを活用。
- BtoBおよびBtoCの配送事業をグループへ水平展開、サービス対象地域が拡大
  - SBSリコーロジスティクスの東名阪の幹線および地域配送網を活かして、名古屋地域へ進出。
- トラックの稼働率が向上
  - 車輛ごとの稼働状況を把握。
  - 公式会議体で稼働状況を共有。
  - 輸送営業の専任部門を設置。



## ■ 現場の省力化推進

- 省力化や「働きやすい職場づくり」を目的に、ITツールを段階的に導入。
- 生産性向上や離職率低下などの効果を確認。

《SBSロジコム 印西物流センター支店》



↑ 作業員の後を追って自動走行する台車



↑ ウェアラブル端末

>> 作業員の両手が空くことで生産性が向上する。

## ■ 営業活動の効率化

- HPからの引き合い数が増加、かつ受注率が向上。
- 顧客情報システムなどを活用し情報共有することで、受注から立ち上げまでの期間が短縮。

# 物流事業（４）物流施設への投資を加速

21

■ 運営面積の拡大に伴い自社開発・賃借問わず、優良な物流施設の開発を推進。

- 2018年から2023年までの5年間で、約14.6万坪を増床予定。

## ▼開設を予定している物流施設

年 度	増床面積	(単位:坪)		備 考
		賃 借	自社開発	
2018(実績)	13,626	11,203	2,423	岩槻、入間、阿見
2019	18,537		18,537	大阪南港
2020	18,518	18,518		城南島、横浜金沢(賃貸)
2021	15,430		15,430	横浜金沢(開発)
2022	37,000		37,000	野田瀬戸A棟
2023	43,000		43,000	野田瀬戸B棟
合 計	146,111	29,721	116,390	



## ■ 2018年

- 8月、リコーロジスティクス普通株式66%の取得手続き完了
  - 全国拠点で相互交流、シナジー創出プロジェクトキックオフ。
- 9月、香港のオフィス統合
  - リコーロジスティクス香港オフィスへSBS香港オフィスを統合し現在、組織統合も進捗中。
- 10月、リコーロジスティクスにて組織改革・営業力強化
  - 国内・海外・経営企画部門における経営判断のスピードアップを企図。
  - 営業担当者を大幅増員し、営業体制強化へ。
- 10月、SBSタイ法人にて、リコーグループのフォワーディング事業などを取り込み。
- 11月、SBSロジコムとの倉庫共同運営が決定
  - 「仮称・Dプロジェクト東京城南島II（'20.3竣工予定）」着工。



## ■ 2019年

- 1月、社名変更「SBSリコーロジスティクス(株)」始動。  
➢ 社名にSBSをつけ、名実ともSBSグループへ。
- 7月、本社機能をSBSグループ本社(東京都墨田区)へ統合。(予定)  
➢ グループ会社間のコミュニケーションを活性化しシナジー創出を加速



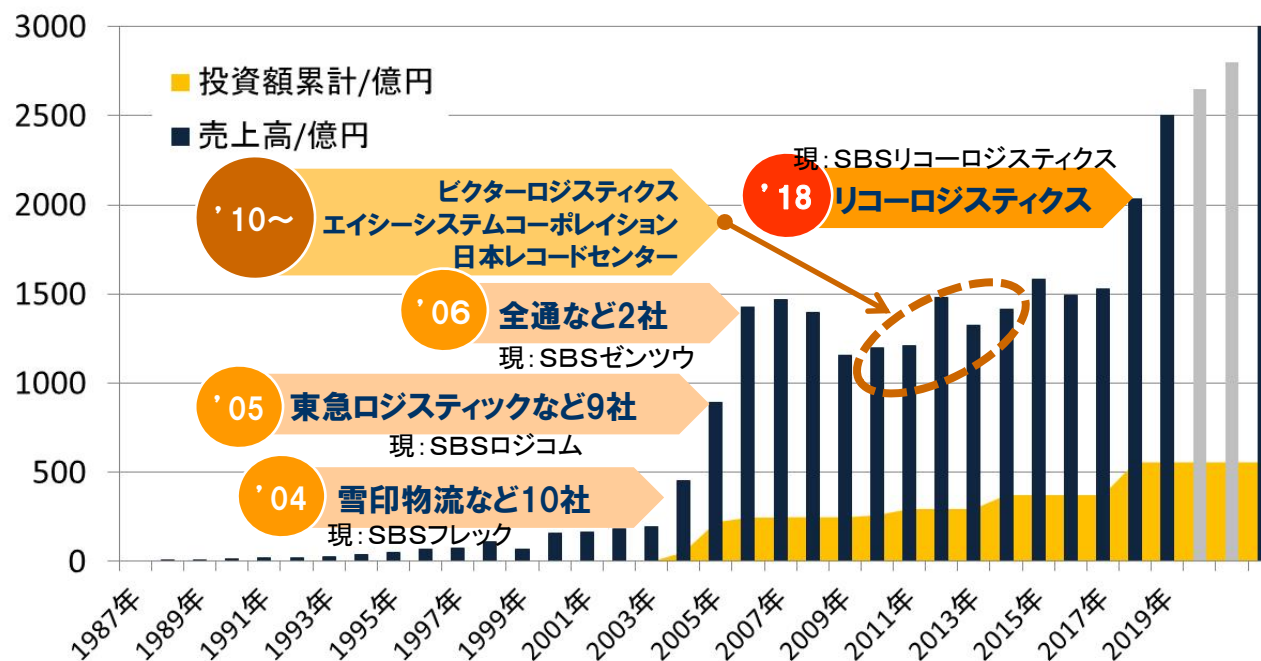
## ■ 進行中のシナジープロジェクト

1. 物流施設開発Pj.  
➢ SBSリコーロジスティクスのビジネスにマッチした仕様の物流施設開発。
2. EC通販向けラストワンマイル事業の共同展開Pj.  
➢ 首都圏中心だった対象エリアを、全国規模に拡大。
3. 海外拠点統合Pj.  
➢ 香港、タイに続き他拠点も順次実施。
4. 共同購買推進Pj.  
➢ ボリュームメリットを効かせて燃料、車輛、保険等を仕入れコスト削減を目指す。

# PMIを通じて確実な成長を実現

## ■ 旧雪印物流(SBSフレック)、旧東急ロジスティック(SBSロジコム)などで培ったPMI手法、経験を活かし推進

- 段階的な構造改革と、成長に不可欠な投資を同時に推進。
- 経営指標の見直しによる収支管理の徹底。(拠点別営業利益を重視)
- 経営資源のグループ内相互活用。
- 雇用調整せず、個々の能力を考慮したキャリアチェンジで人材を積極活用。



# 物流施設開発（1）大阪南港物流センター 25

## ■ 2019年3月竣工(予定)

- 百貨店、小売業など賃貸面積の約80%のテナントが内定。
- SBSロジコムHPにて「バーチャル内覧会」公開中！  
<https://www.sbs-logicom.co.jp/lgcm/osaka-nanko/>



名称	南港物流センター
住所	大阪市住之江区南港南2丁目
敷地面積	24,858㎡（約7,520坪）
延床面積	61,274㎡（約18,540坪）
構造	鉄骨造地上4階建（一部SRC造）
設計施工	大和ハウス工業株式会社
着工	2017年12月
竣工(予定)	2019年3月



2019年1月撮影



# 物流施設開発 (2) 野田瀬戸物流センター 26

- 2019年12月、「野田瀬戸物流センター〔A棟〕」着工(予定)
  - EC通販、小売業などの企業が検討中。



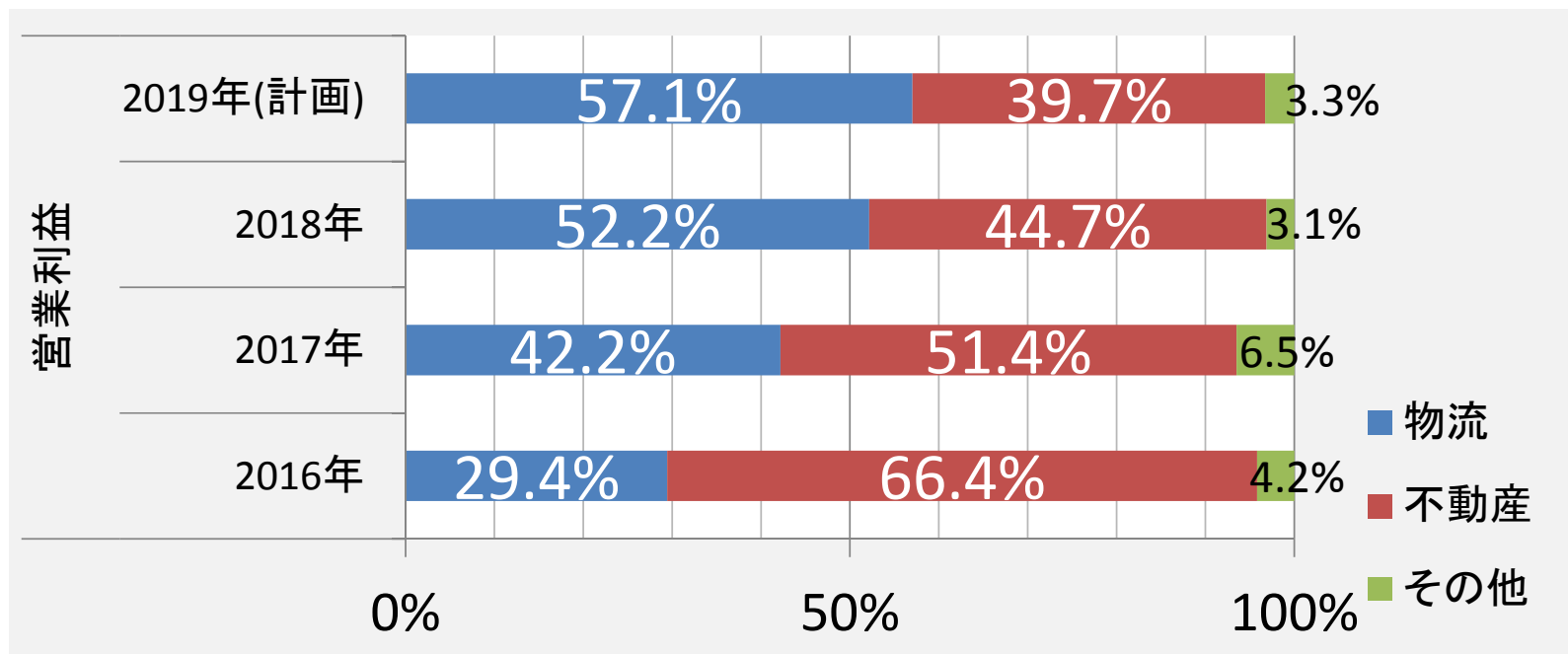
名称	野田物流センター		
住所	千葉県野田市瀬戸		
	合計(A+B)	A 棟	B 棟
敷地面積	約3.5万坪 (115,857㎡)	約1.6万坪 (53,208㎡)	約1.9万坪 (62,649㎡)
延床面積	約8.0万坪 (265,964㎡)	約3.7万坪 (122,602㎡)	約4.3万坪 (143,362㎡)
	着工(予定)	2020年上期	2021~22年
	竣工(予定)	2022年下期	2023~24年



# ■ セグメント業績のバランスについて

## ■ 物流施設の流動化業績のインパクトが減少する傾向

- 2018年12月期、物流事業の営業利益が全体利益の過半を占める。
- 2019年度以降も、物流施設の流動化は一定規模で推移。



## ■ 「融合」

- 2019年度のグループキーワードとして全社レベルで共有。
- 個性豊かな既存グループ企業とSBSリコーロジスティクスとの交流を活性化しシナジー創出を加速する。

## ■ 自律成長で、売上高3,000億円を早期に実現

- 「融合」が進めば、おのずと到達するゴール。

## ■ SBSグループ独自の3PLビジネスモデルを進化させる

- 「高い提案力&現場力」「強い配送力」「価格競争力のある物流施設」を統合し、品質とコストパフォーマンスを兼備した物流サービスを実現。
- 物流施設、IT、人材への投資を積極化。

「物流を改革する」夢を全員で共有し、実現する！



**SBS GROUP**

*For Your Dreams.*